

B 71 衣服と環境温度にかかわる快適性（第1報） 小・中学生の着用衣服に対する快適因子とそのプロフィール
大阪教育大 ○奥窪朝子 山口大医・公衛 酒井恒美

目的 温熱的快適性をうるための着衣量および環境温度を支配する二、三の要因とその影響については、すでに明らかにすることができた。本研究は、広義の衣服の快適因子をはじめ、衣・食・住生活における諸関連事項をふまえ、本主題を多角的見地から解明することを目的とした。本報では、快適なものであるための着用衣服に対する要求はどのような因子によって構成され、またどのような特性があるかを小・中学生について検討した。

方法 対象者は小学5・6年および中学2年の男女生徒（大阪府下の公立14校からクラスを無作為抽出）で、同一人に秋と冬との2回、5時限の受講時の状態を調査した。有効回答数は4202である。調査項目は、着衣の快適性にかかわりを持つと推定して設定した14項目に対する要求度、着衣に対する温熱的ならびに総合的快適度の申告、着衣量、薄着に対する意識、教室内気温などである。因子分析は、ヤコビ法による主成分分析、バリマックス法による回転を行った。

結果 1)着用衣服に対する快適因子は、主成分分析の結果第1成分としてファッション性、第2成分として活動性、第3成分として温熱性、第4成分として学校にふさわしさと命名できる因子が抽出された。累積寄与率は57.4%であった。2)制服校か自由服装校か、着衣量、薄着に対する意識、着衣に対する温熱的快適性と総合的快適性、かぜをひいた回数、スポーツは好きか否か、などの違いによる群別各因子得点のプロフィールにおいて、かなりの規則性が見いだされた。3)4因子の合計得点の高い者では、その低い者より着衣に対する総合的快適性において高い快適性を得ている者が多かった。